

【第1編 経済3-9】幕府の誕生とその裏側の財政事情

日本経済史のあらまし 武家政権への憧れと幕府財政の現実

(1)701年の大宝律令

①律令制が機能しなくなってきた

②荘園の急増

律令制の崩壊に合わせて武家が台頭する

701年 大宝律令

朝廷を中心とする律令制がだんだん機能しなくなってきた

国司の任期が短い（4年程度）

→ 地方の郡司が徴税実務を担う！

平安時代以降、荘園が全国で急増する

→ 現地の管理者が権力を強める

平安時代後半 武力の需要が増したことで武家が誕生！



(4)鎌倉幕府 (1185 年)

①1192 年：源頼朝が征夷大將軍に任命される

②御恩と奉公

③元寇 (1274 年文永の役、1281 年弘安の役)

→御恩が不十分に

④悪党

財政難によって求心力を失った鎌倉幕府

北条氏

1192年7月 源頼朝が征夷大將軍に任命される

御恩

御家人

相続

各地の豪族が所有する土地の支配権を保障する (= 本領安堵)

奉公

御恩の見返りとして、有事の出兵や都市部の警護を行う

げんこう

元寇

(1274年 文永の役、1281年 弘安の役) の御恩が不十分に...

→ 後醍醐天皇が「悪党」らを取り込み倒幕に向けて挙兵

⑤六波羅探題

(5)1333 年 7 月

→後醍醐天皇による「建武の新政」

財政難によって求心力を失った鎌倉幕府 六波羅探題 御成敗式目

鎌倉御家人の足利尊氏や新田義貞も倒幕に傾くことに

1333年7月～ 後醍醐天皇が「建武の新政」をスタート

→ 武家から権力を奪い返し、天皇親政を取り戻す！

土地の所有権に関する紛争は、すべて天皇が判断する

大内裏（＝天皇邸）造営のための貨幣鑄造計画、徴税の強化

宋銭

(6)1336 年頃 室町幕府が成立

①土倉や酒屋と寺社勢力

②土一揆

③徳政令→財政悪化へ

室町時代、幕府の税収を支えた酒屋と土倉

1428年 正長の土一揆 1392年 明徳の和約

1336年頃 室町幕府が成立する 日銀

→ 幕府の直轄領が非常に少なかった

→ 反対派が南朝に寝返るのを防ぐ！

洛中辺土散在土倉并酒屋役条々（1393年）

土倉や酒屋に対する課税で税収確保へ

銅銭→中国との貿易に精通していた寺社勢力からの資金提供

当時は金利が高かったため、土一揆が頻発するようになる

→ 幕府が徳政令を出すも、同時に財政悪化につながる...



初代将軍 足利尊氏

→デフレ循環になっていく

→自由に金融政策が出来なくなっている

現代の例：EU など